水を仕事にする魅力、やりがい

市町村を側面から支援する

日本下水道事業団
東日本設計センター機械設計課
荻野　瑞葵さん

■成長できる場所

家族が公務員であったこともあり、就職活動では公共事業に関わる仕事を探していました。その中で日本下水道事業団（JS）を選んだのは、地方公共団体の支援代行機関として下水道事業をサポートする、つまり自治体とそこで暮らす人々を側面から支援できると思ったからです。

機械設計課に所属して2年目を迎えました。現在は主として北海道の下水処理場の改築・設備更新や設計業務の管理、工事の発注業務に関わっています。具体的には、対象施設の機械設備に関して、地方公共団体や関係者と話し合い、運営方法や問題点を聞いた上で今後の設備更新にどう反映していくかを一緒に考えていきます。

1年目に発注した工事がもうすぐ完成を迎えます。自分が携わったものがきちんと形になるのは達成感があります。

■充実した研修制度

大学院では生物の研究をしていたのですが、その反面機械についての知識が少なく、資料を探すのにも時間がかかっていました。今も何度も確認したり、先輩に聞いたりしていますが、質問にも迅速、適確に応えられるようになりたいと日々勉強しています。

JSは研修制度が充実しています。OJTで所属長や先輩職員に教えていただいていることに加え、人事部局主体の全体的な研修、戸田市にあるJS研修センターでの研修、現場見学会などを通じてモノを見る機会を増やし、知識を得ることができます。その人のニーズに合った学習ができる手厚いサポートがあります。

先日、母校の研究室を訪問し、自分の仕事内容を後輩に伝える機会があり、豊富な研修制度と自分の努力により、専門的な知識がなくても学びながら関わっていけることを伝えました。地方公共団体に寄り添い、その課題や要望を共に解決できることにやりがいを感じています。

◇

PCに向かっての作業が多いのですが、土日はしっかり休めますし、フレックス制度を利用して早く帰り、趣味であるスポーツ観戦も存分にできています。休日にはテニスで汗を流すこともよくあります。

機械設計には今後とも携わり、いずれは計画業務や施工管理なども経験し、下水道事業の全般に関われるようにしていきたいですね。

担い手不足が課題になっていますが、市町村の下水処理場は永続的に運営していかなければなりません。施設の老朽化は喫緊の課題ですし、今後は省エネや脱炭素なども重要視されてきます。機械設計、改築に関わり、日本全国の自治体を支えていることは、ひいては町やそこに暮らす人を支えることにつながると考えています。

新たな経験を積み重ねて

日本水工設計
大阪支社　技術二部　機械設計課
斎藤　智哉さん

■場内の機械設備の設計

私は汚水や雨水のポンプ等をはじめ、下水処理場内に設置する機械設備の仕様や配置の検討・設計を行う業務に携わっています。大学時代は機械工学を専攻していましたが、周りの友人は水コンサルタントのことをそもそも知らない人が多かったと記憶しています。私自身、上下水道の知識はほとんどありませんでしたが、縁あって日本水工設計に入社し、今年で5年目になります。機械設計の部門は東京・大阪の2拠点にしかないことから、西日本エリアの幅広い自治体の案件に携わっています。

仕事は基本的にデスクワークが主となりますが、お客さまとの協議や施設の状況確認の際に現場に出ることもあります。既存施設の設計図面は、土木・建築・機械・電気など部門別に作成されるので、例えば土木部門が個別に工事をした際など他職種の情報が十分に反映されていない場合があります。設計工程における手戻りの発生等を防ぐためにも、自分の目で現場を見て情報を得ることを大切にしています。

■失敗が現在の糧に

入社1年目に担当した業務の中で、新たに採用する機械設備の仕様決定で失敗したことが印象に残っています。機械設備の更新においては、例えば汚泥脱水機であればベルトプレス、遠心、スクリュープレスなど多くの種類があります。それぞれ特徴や適する条件が異なるため、既設の処理方式や施設規模等を加味しながら最適な仕様を決定し、お客さまである自治体担当者に提案を行うことがコンサルタントの役割です。

この過程において、自分の思い違いでお客さまの望む仕様と異なる機器仕様を提案してしまい、修正等の対応に苦労したという出来事がありました。お客さまにご迷惑をおかけしたこともあり、当時はかなり落ち込みましたが、上司、先輩のフォローのおかげで乗り切ることができました。この経験を糧にし、自分も後輩を支えられるようになりたいと思います。

■研さんを重ねる日々

これまで毎年さまざまな案件を経験し、1年間を乗り切るたびに成長している手応えを感じています。一方で、業務では上下水道について幅広い知識を求められるため、自分の未熟さを思い知ることも多いです。当社は部門や年齢を問わず、相談しやすい人柄の社員が集まっていると感じるので、周りの人たちからさまざまなことを教わりながら自分でも日々勉強を重ね、社内外から信頼される技術者になりたいと思います。

水コンサルタントは、理系の間でもそれほど認知度が高いとはいえない業界ですが、生活に欠かせないインフラを陰ながら支える重要な役割を担っています。また土木・建築・機械・電気など、多様な分野の専門職が活躍できる場ですので、ぜひ選択肢の一つに加えてほしいと思います。

丁寧な対応で強固な信頼を

森松工業
東日本水道営業部
中田　真平さん

■ステンレスタンクで社会を支える

森松工業は、国内で初めて開発した「ステンレスタンク」を軸に、配水池等の水道施設や建築設備の設計・開発・製造・販売を自社で一貫して手掛けています。

地域に根差して社会に貢献できる仕事に就きたいと考え、地元である岐阜県内などの企業を中心に就職活動を進める中、本巣市に本社を構えて全国展開する当社の存在を知りました。

人々の生活や産業に必要不可欠な〝水〟に関わる仕事であり、意識して街を見渡すと多くの公共施設等にもステンレスタンクが設置されていることに気付かされ、社会を支えている企業なのだと率直に感じました。

■自分自身のキャラクターを生かして

営業職として入社し、今年で6年目になりました。現在は千葉県内の営業担当として、施主となる水道事業体（自治体の水道局など）のほか、水道事業体を計画策定等の面で支える民間の水コンサルタントを訪問する日々です。当社として採用実績がなかった水道事業体にステンレスタンクを提案し、新たに導入していただけた時には特に大きなやりがいを感じますね。

中長期を見据えて事業を進める水道事業体への営業は、付き合いが長くなる点が特徴であり、丁寧な対応で強固な信頼関係を構築することが重要です。定期的に行われる計画の見直しや新たな事業の展開にアンテナを高く張ることはもちろん、私自身のことを「何でも相談しやすい面白い営業マンだな」と興味を持ってもらえるよう、趣味のことなど世間話も交えながら密にコミュニケーションを図っています。

■部署横断的なチーム意識

当社では、職種によらず、入社後の研修期間で溶接作業や施工現場の立会いを経験します。製造プロセスに従事したからこそ、自社製品の強みである施工性の良さや高い強靱性、優れた衛生性、美観性などを自分自身の実感を込めた言葉でPRすることができています。

また、水道部門の営業・設計・製造・工事等に携わる社員の間にはチーム意識があり、若手からベテランまで、部署の垣根を越えて互いに相談・報告しながら頼り合える風通しの良さも心の支えになっています。

■自分の限界は自分で決めない

災害等があれば迅速に対応する点も当社の強みの一つです。水を通じて社会に貢献したいという思いのある人にはぜひとも当社への入社を検討していただきたいですね。

就活中はさまざまな葛藤があると思いますが、自分の限界は自分で決めずに、迷った時こそ次の一歩を踏み出してみてください。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

足立建設工業株式会社
本社
〒121-0836 東京都足立区入谷8-9-9
TEL：03-3899-0121　FAX：03-5691-7735
豊島本店
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-9
TEL：03-5957-3344　FAX：03-5952-1056
テクニカルセンター
〒121-0836 東京都足立区入谷9-30-10
TEL：03-3857-6471　FAX：03-3857-6472
ADACHI
adachi-tokyo.co.jp